

令和7年度の 収入支出予算が決定しました

去る、2月19日（水）に開催されました第174回組合会において、令和7年度の収入支出予算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

【予算の概要】

令和7年度予算の収入面においては、被保険者数および平均標準報酬月額増加・増収を見込んでおり、前年度に比べ36億13百万円を増額し計上しております。

支出面においては、ここ数年の保険給付費の大きな伸びは縮小傾向ではありますが、月によって保険給付費の差が大きく、見通しが難しい状況であり、また、納付金は団塊世代の方々の後期高齢者への移行等により確実に増加しています。

結果として、報酬も伸びてはおりますが支出を大きく上回る状況には至っておらず、前年度からの繰越金を繰り入れたとしても経常収支差引額では、66億13百万円の赤字予算となっております。

■予算基礎数値

被保険者数	325,000名
平均標準報酬月額	330,000円
健康保険料率	100% (調整保険料率1.30%を含む)
介護保険料率	15.8%

健康保険料

収入

健康保険収入 1,410億8,116万9千円

前年度比で36億1,333万7千円の増額を見込む

- 被保険者数を前年度に比べ4,000名増の325,000名で設定。
- 平均標準報酬月額は、前年度に比べ5,000円増の330,000円で設定。

支出

保険給付費 812億9,192万5千円

納付金 594億8,125万円

保健事業費 53億8,346万円

- 保険給付費は、過去の平均伸び率及び直近の医療費の動向を基礎に算出し、前年度に比べ、3億75百万円増額し計上。

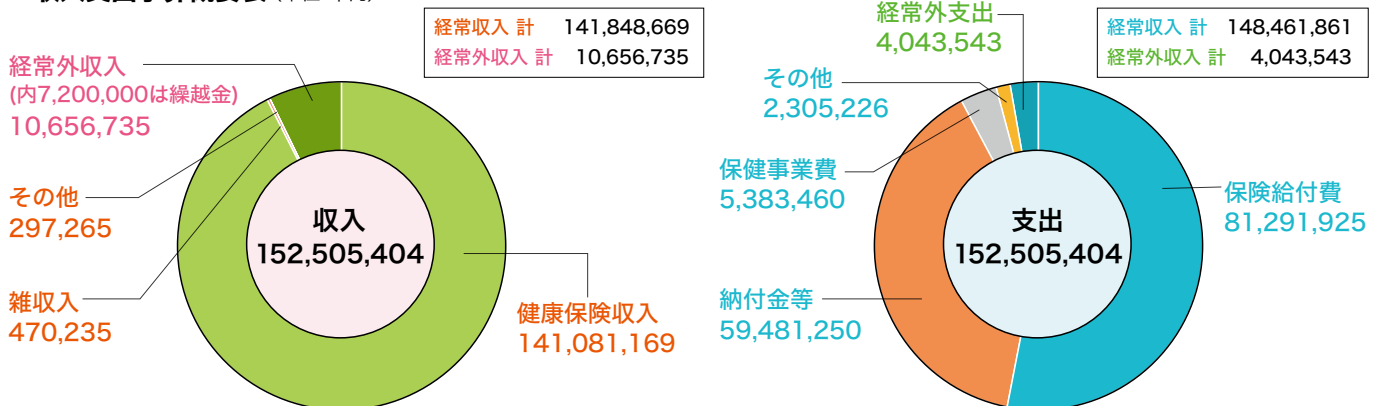
- 納付金の、「前期高齢者納付金」は、前年度に比べ5億60百万円減額し計上。

これは、団塊世代の方が全て後期高齢者に移行したこと等により、当組合における前期高齢者の加入者調整率が低下したため、負担が減少したものであり、「後期高齢者支援金」については、前年度に比べ18億89百万円増額し計上。

- 保健事業費は、直営保養所である、鎌倉保養所（かまくら味彩館）・熱海保養所（サンライズ熱海）および東実体育センターの廃止に伴い、前年度に比べ2億12百万円減額し計上。

今後においても、各保険者に対し特定健康診査、特定保健指導の実施率向上が求められることから、当組合においても「第4期特定健康診査等実施計画」に基づき、令和11年度における実施率目標に向けて、受診率・実施率の向上に取り組んでまいります。

■収入支出予算概要表（単位：千円）



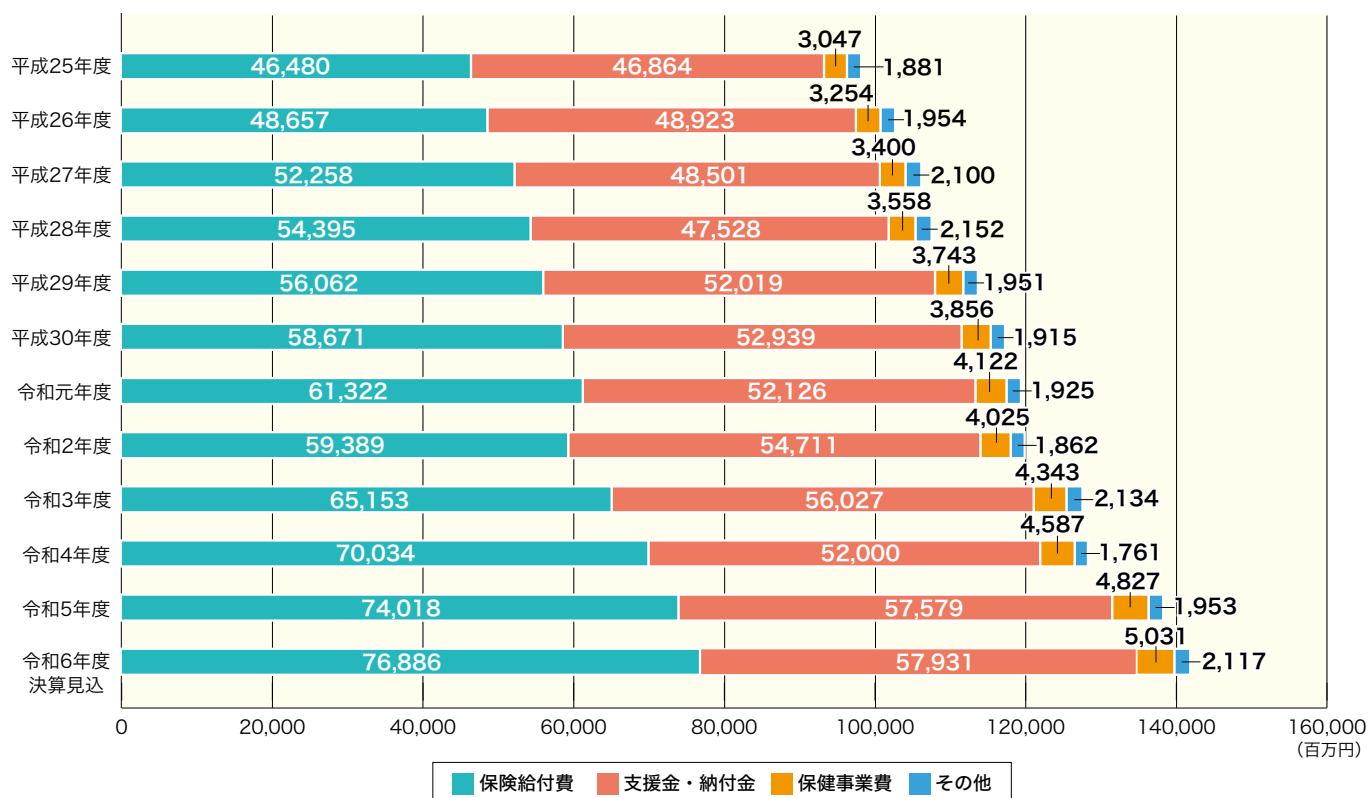
介護保険料

介護保険は収入支出ともに、141億2,016万9千円

- 被保険者数の増加等により、前年度に比べ4億3百万円の増額を見込む。

- 介護保険料率については、介護準備積立金から繰り入れることで、介護納付金を賄える見込みであることから、介護保険料率を千分の18.2から千分の15.8への引き下げとなります。

経常支出内訳の年度比較



ポイント解説

健康保険

財政悪化の原因 / 納付金ってなに？

健康保険組合は、被保険者と事業主が納める保険料をもとに、加入者の医療費を給付し、健診などの事業を行っています。加えて、高齢者の医療費のための納付金を国へ拠出することが義務づけられており、この納付金は健康保険組合の財政に大きな負担となっています。

①

ポイント解説

納付金は、65歳以上の高齢者の医療費のために健康保険組合が国へ拠出するものです。

②

ポイント解説

納付金が保険料の半分以上を占める健康保険組合もあり、財政悪化の原因となっています。

納付金は高齢者医療費への拠出金

健康保険組合は、国へ高齢者の医療費のための拠出金(＝納付金)を納めることが義務づけられています。

65歳以上の高齢者1人当たりの医療費は年間約78万円で、65歳未満の1人当たり医療費約21万円のおよそ4倍にもなります(厚生労働省「令和4年度国民医療費の概況」より)。高齢者の医療費のうち、自己負担割合は70～74歳が2～3割、75歳以上が1～3割で、それ以外は健康保険組合などからの納付金と公費と高齢者の保険料で賄われています。

納付金の主なもの

- 前期高齢者納付金
65～74歳までの前期高齢者の医療費のための納付金。
- 後期高齢者支援金
75歳以上の後期高齢者の医療費のための納付金。